「日韓併合100年」をめぐる「菅総理の談話」に関する新聞各社の社説

各社の社説の中には「日本は、確かに朝鮮を植民地化したが、朝鮮のインフラ整備、教育の向上、殖産興業等、良いことも沢山して来たではないか」というコメントもありました。（産経新聞）

先週の何日か忘れましたが、NHKが「日韓併合100年・これからの日韓関係をどうすべきか？」と言うようなテーマで、日韓の若者と有識者を集めて討論会をやっていました。

ある日本の若者が、「韓国は日本と一緒にあってアメリカと戦ったではないか。日韓は同胞である。」と発言し、崔映画監督から「君は何を勉強して来たのか。君のような人は歴史を語る資格は無い」と厳しく批判されました。

元外務省・北米局長の岡本幸夫さんは、日本が韓国を侵略し植民地とした事実を若者が知らないのは、学校での歴史教育が、縄文式土器の時代から江戸時代位までは詳しくやるが、明治時代以降は簡略化しているからであり、**古い昔の歴史も大切だが、日本近現代史にもっと力を入れるべきである**と言っていました。

私は、「靖国神社参拝の是非」は賛否両論あって然るべきと思いますが、「日韓併合100年」に当たっての「菅総理の談話」は正当であり、産経新聞の報道スタンスは間違っていると思います。

帝国主義時代（食うか食われるかの時代）に、当時の日本人が判断したことであり、「日韓併合」が良いか悪いかは議論が分かれてもよいが、「日本が韓国を併合して日本の植民地にした」事は事実であり、「韓国の同意を得て併合した」「日本の併合で韓国は経済発展した」等は詭弁であると考えます。

私の考え方は間違っているでしでしょうか？
ご意見なりご批判をお願い申し上げます。

大久保啓次郎